

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770101731		
法人名	有限会社アイ・エヌ・エス		
事業所名	グループホーム ハートピア 3階		
所在地	福島県福島市北五老内町3番9号		
自己評価作成日	令和4年2月15日	評価結果市町村受理日	令和4年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	令和4年3月25日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・サブ理念に「その人がその人らしく生きるために」を掲げ、職員にはしっかりと浸透してケアをしている。</li> <li>・主治医は、福島セントラルクリニックを開業。月2回訪問診療を行っている。処方箋を切り、薬局が配達する。</li> <li>・緊急時は、夜間でもセントラルクリニックが受け入れ、スムーズに診療・治療が受けられる。また、訪問看護との連携を取り、常に健康管理をしている。</li> <li>・看取り介護を導入している。ご本人・ご家族様に安心して頂けるよう研鑽している。</li> <li>・福島市の旧市街地に立地の為、交通の便が良い。</li> </ul>
--

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で、要介護状態になっても、認知症になっても、家庭的な環境の下で暮らして行けるように、ひとりひとりに合わせたケアを実践いたしております。サブ理念においては、職員の公募で決定し、その方の尊厳を守り、持つ力を維持するよう努めます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ入会をしており、回覧板の閲覧や、敬老会行事のときには、記念品をいただくことがあります。また、民生委員の方にも大変お世話になっており、コロナウイルスが流行りだした頃は、とても心配して下さりました。御利用者様が地域の一員として安心して暮らせるように、積極的に地域との交流を図ります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームからと徒歩圏内に居住していた方、また、近場からの入居があり、地域の中でグループホームとして活きていると実感しています。今後も、地域と共にあるホームで在りたいと思っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事内容の見直しや、事故報告・対策、感染対策、職員・利用者の現状などを話し合っています。職員からの意見を今後の参考に、向上した施設づくりを目指しています。報告書を全職員が閲覧することにより、内容を共有しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事務手続き等について、質問した機会に、丁寧にご指導頂戴しました。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の研修に参加をし、資料の閲覧、レポートの閲覧を全職員に行っている。身体拘束を行わずに、利用者様の安全を確保しようとする場合、'危険を予測し、回避する対策を講じる' そのためには、職員ひとりひとりでアセスメントをし、チーム全体で対応策を構築して行こうと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症の方は、100人いれば、100通りの認知症状がある。その中で、‘精神分野’の知識・技術を習得することが、ケアの第一歩であり、ケアの質を上げることになるため、職員同士でこれらの点を共有、ひとりひとりが学ぶ必要があります。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	‘権利擁護’と‘尊厳’。人と権利とは、自由権があるということです。その人らしさ、自己決定ができるということです。「その人を大切にすることが‘尊厳’なのであるということ、全職員で共有して行きたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時契約の際に重要箇所や、加算についてや、入居後のサービスについて等をひとつひとつ、契約者様と確認を取っております。また、入居後に変更があった場合、都度、文書にて案内・報告をし、理解を得た上で署名をいただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、現在外部の方(ご家族様)に書面にて報告をしています。ご意見については随時募集をしています。ご意見を頂戴するため、お電話をすることがあります。意見を元に、日々のケアに努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りで、日々変化する利用者様の状態を職員で意見交換、情報を共有しています。必要に応じて管理者へ都度報告、ご家族様とも情報を共有し、サービス向上に努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	‘やりがい’や、‘勤務意欲の向上’はとても重要であると思います。職員の努力は各個人の発展に繋がり、ケアの向上は利用者様の満足にも繋がります。強いては、会社の発展にもなり、その発展を各個人に還元していくことが重要であり、勤務意欲の向上へと、好循環になると思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1度、外部での研修へ全職員が参加しています。研修資料、レポートを職員全員で共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に1度、開催される地域との交流イベントを通じ、他施設の方と話せる機会がありました。また、他施設からの就業を取り入れており、情報交換をすることができております。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時に、利用者様の情報、その中で、ご家族様が困っていることや、悩み事を聞き、まとめております。また、実態調査を通し、過去の様子、現在を通じ、要望を聞き、入居後のサービス向上に繋げております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者様は新たな場所での生活となるため、大変に戸惑いがあります。ご家族様も大切な家族で離れ離れになってしまうので、不安が大きいと思います。初期の段階でその不安をケアやサービスに移行し、信頼関係を築いていくよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアやサービスを実践するに至り、ホームでの最大限の資源を活用する。不足の場合は、福祉用具の導入を検討したり、実例を挙げると、デイケアを利用し、ホームでは限界な所を補ったりしました。個別での対応により、満足のあるサービスを提供するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームのメリットである、少人数制を活かし、馴染みの関係の構築により、安心感のある生活を提供しています。寄り添える関係を目指し、不安感を取り除き、穏やかな暮らしを提供できるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の支援は、都度、ご家族にも意見をいただきながら、進めています。職員、ご家族の信頼関係の下、プランに取り入れ、サービスに活かしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出を自由にすることは、現在はできませんが、例えば、毎月、地域の広報誌を届けてくれるご家族がいます。利用者様はその広報誌をととても興味深げに読んでおられる様子に、職員も安心をします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアの利用者様同士、活発に会話をされています。昔就いていた仕事の話や、縁のあった方なことなど、日々、話されており、活力になっているのではないかと思います。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族等の意思ではなく、医療上等の都合で、他の施設へ移動をする場合、とても不安そうにしておられます。移動場所の利点等を示し、今後の生活の不安を取り除くことが重要だと思います。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の状態が変化して行く利用者様の思いや、不安感、それに伴う要望を取り入れ、ケア・サービスに繋げなければなりません。そのため、職員は、常に‘変化’には気を配り、ケアを行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方を理解する上で、一番重要なのが、生活歴であると思います。その方の好きだったこと、得意だったことをケアに活かし、その方の持つ能力を維持できるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の変化は、昼夜によっても全く違ったりされる方も多いため、不穏な状況時を見極めケアをして行きたいです。‘独りになると寂しい’や、‘夕方になると帰宅願望が出る’といった状態は見逃してはなりません。個別に対応をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々心身の状態が変化するため、職員間の情報を共有し、ご家族に報告をしております。そして、現状のケア・サービスで不足しているものはないかを話し合い、日課やプランを変更しております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常時とは違う表情や、言動を足掛かりに、心身の状態の変化に気付くために、介護日誌の特記事項という箇所を設けております。これにより、皮膚状態の変化等を全職員が把握を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当ホームでは、月2回の主治医による往診、週1回の訪問看護師の利用があり、また、急変時は、主治医管轄の病院へ搬送いたします。医療面でのケアも行えるように、支援致しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、外出や、ボランティア様をお迎えすることは困難ですが、以前は、近所の保育園や短大に咲いている桜を観桜したり、蕎麦打ちのボランティア様をお迎えしておりました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診があります。日々の体調を伝え、診察をしていただき、内服薬を処方していただいております。診察後は、主治医演奏による歌を唄われ、コミュニケーションを取っています。また、緊急時には、主治医管轄の病院への搬送が可能です。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護診療があります。爪水虫の利用者様の爪きりや、皮膚状態の相談、バイタルの相談等をし、介護職・看護職の連携を取っています。また、主治医へも連絡をし、医療へ繋げています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、ADLサマリー、入院時サマリーを病院へ渡し、看護師との情報共有をします。入院中もホームの職員と看護師と連絡を取り合い、状況把握に努めます。退院時もサマリーにて情報を共有し、退院後も安心してホームでお過ごしいただけるよう、努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの同意書を交わしております。しかし、月日が流れる中で、ご家族の気持ちも変化しているので、利用者様の様子を伺いながら、都度、主治医、ご家族と連携を取りながら対応しております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応(意識・痛み・外傷の確認、バイタル測定)、主治医、ご家族への連絡については、日頃より職員に伝えています。また、救急搬送時マニュアルを作成し、適切な対応が出来るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、併せて災害時の連絡も行っています。夜間避難訓練も令和3年に独自で行い、令和4年度から消防署に報告予定です。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の得意だったことを見極め、ホーム内でも活かせるよう、支援をしています。その事が‘誇り’に繋がると考えています。また、日頃より、羞恥心に配慮しながら、排泄や入浴介助をしています。全居室個室のため、プライバシーを保て、生活して頂いています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で、利用者様ご自身で自己決定出来るよう声掛け・支援をしています。例えば、歌のレクリエーション時、「今日は何の歌を唄いますか？」とたずねると、「じゃあ、ふるさとー」など、決めて下さいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースや、体調、能力に応じ、1日1日を過ごしていただいております。積極的に歩行運動を行っている方もいたり、洗濯干し、食器洗いやテーブル拭きなど家事を手伝ってくださる方などさまざまに生活されております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自力で出来ない方は、職員がヘアブラシやタオルを使い、整容を支援しています。ご家族からプレゼントされたその方好みの洋服を着たり、家から持ってこられた馴染みの服を着たりとその方らしくおしゃれをされます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事前は、食前体操を行い、メニュー発表をし、雰囲気作りをしています。季節の食材を取り入れたり、四季折々の行事毎に行事食を楽しみます。おやつは、手作りにも挑戦し、利用者様と共に美味しいおやつを頑張って製作しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1000CC以上の水分を取るようになっています。むせりがある方には、とろみ調整剤を使用して摂取していただいております。その方に応じて食物の形態を変えて対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、口の中を清潔にし、誤嚥時の細菌を少なくし、肺炎の発生を減らせることから、食後一人一人に声掛けし、行っています。出来る限り、うがいをさせていただきたいですが、難しい方は口腔ケアティッシュにて食べカスを除いています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居当初はトイレを使用していた方であっても、身体機能が低下したと紙オムツ使用になる方が多いです。パッドを交換する際は、声掛けをし、その方の羞恥心や尊厳に配慮したケアを実践しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分が不足していないか、可能な限り運動を取り入れる。朝食時、ヨーグルト、ヤクルト、牛乳を摂取している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けをすると、喜ばれることが多いが、あまり気乗りされないときは、時間を変えたり、別日に入浴をさせていただいています。歌を唄いながら入浴されていた方もおりました。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、傾眠のある方や、疲れやすいかたは、居室で臥床し、休まれております。その方その方のペースで居室にて戻られたり、他の利用者様といることで安心されている方もいます。夜間は、皆様、寝付きよく、就寝しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	おくすりファイルを準備し、薬の写真、効能がすぐにわかるようになっています。薬は、与薬ミスがないように、二人一組で確認をしてから、与薬をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔からやっていた、家事類を積極的に行っていただいています。特に、洗濯たみは皆様とてもお得意な様子です。また、誕生会では、近くのケーキ屋さんからデコレーションケーキを購入し、お祝いをしています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	‘戸外へ行きたい’という要望は利用者様からはあまりありません。それでも、コロナ禍より以前は、職員からお声掛けし、近所まで散歩へ行ったりしていました。コロナ禍が落ち着きましたら、要望をお聞きし、検討したいと思います。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1～2万円を、個人様毎にホームの金庫で預かり金として管理しております。小銭を利用者様自身で所持されている方もおります。特にトラブルはありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の妹様より、「本人と話したい」と電話を受けることがあります。とても和やかに話されております。付き合いの長いご友人からの年賀状や、海外在住の孫様からの手紙を送ってこられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにしながら、季節を感じていただきたく、飾り物を置いたりしています。定時の喚起や、温湿度管理、危険なものやぶつかったりしないよう、物の配置に注意をしています。衛生上問題がないように、掃除も定時に行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に仕切りは設けておりません。座る位置を認識されており、数名のグループにて話に花を咲かせております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく	昔お世話になったという方の写真を大きな額に入れて飾って額に入れて飾っておられる方がいます。また、奥様が書いた絵を飾っている方などもおり、皆様、馴染みのものは置き、お過ごしになられています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングから、廊下が直線になっており、歩行されている利用者様を見守ることが出来ます。ですので、利用者様が思い思いに歩行される事が可能になります。洗面所・トイレも分かりやすい場所にあるため、利用者様が自力で行かれることが多く、職員は出来ない部分を支援しております。		